

# 北海道胆振東部地震 その時、函館五稜郭病院は…？

函館市医師会  
社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院

中田 智明

9/6（木）3:02 スマートフォンが、けたたましく警音を発令。9/6（木）3:07 胆振地方中東部を震源とする地震発生。震度7厚真町、震度6強安平町、震度5強札幌市、震度5弱函館市、続いて道内全体がブラックアウトになるなど大きな被害および混乱をもたらしました。このたびの地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、被害に遭われた全ての方々に心からお見舞いを申し上げます。

震災当日、未明の地震発生にもかかわらず当院では直ちにスタッフが集まり、午前4:00過ぎには災害対策本部を立ち上げ、院内の被害状況を把握し、発生から2時間半後の5:40頃には病院の方針を決定しました。7:00には全体会議で方針を説明し各自の行動を確認、職員用の食料・水を確保し、迅速に対応することができました。これは当院では数年前より総合防災訓練の内容を大幅に見直し、DMATや市立函館病院と連携した訓練を毎年行ってきたおかげです。幸い当院では大きな被害はありませんでしたが、ブラックアウトにより市内交通網が麻痺するなど通常診療は困難と判断。地震当日は一般外来診療を原則中止とし、緊急性のある患者、残薬不足の患者のみ対応する方針としました。なお、入院患者用給食には支障はありませんでした。

当院ではかねてよりライフライン対策に取り組んでおり、自家発電装置は3台稼働、重油貯蔵も十分にピーク時の8割にあたる1,200kwの電力を約7日間維持できる体制でした。また市水道とは別に井戸水浄化装置による当院独自の水源を持っており、これらによりインフラは維持でき、他施設から透析患者を受け入れることができました。9/6～7の2日間で自院142名、他院78名（市内3ヵ所の施設より受入）の透析患者を受け入れました。特に一日目は3時間透析に切り替えることで、夜遅くまでかかりましたが、全ての患者に無事対応できました。これ

も、透析部門スタッフの献身的な働きのおかげです。

院内スタッフへの情報伝達は、携帯電話による安否確認システムを用いて随時情報を発信したほか、電子カルテやイントラネットのトップページに病院の方針や各部署の復旧状況などをタイムライン形式で掲載しました。また地震当日に計3回、職場長を集めて全体会議を開くなど、停電が長引く中、比較的スムーズに情報提供を行えました。一方、当院利用者に対しては、朝7時台から玄関前にてスタッフが通常診療中止の説明を行い、概ね混乱もなくご理解いただけたと思います。

震災当日の夜20:15に電気が完全復旧し、翌日から通常診療を再開できました。電気や水などの計画的なライフライン対策、スタッフの高い職業意識などにより、全体的に見れば当院の対応には及第点が付けられるとは思いますが、多くの課題も明らかとなりました。今回の被災時点では充分なBCP（事業継続計画）が確立されておらず、大規模地震発生時のスタッフ参集ルールや各部署の役割などが不明瞭であったこと、非常電源マップを整備し周知し、非常電源自体は確保されていたが、いくつか必要性の高いエリアに供給されていなかったこと（非常電源コンセントの未設置）、職員向けの非常食がほとんど準備されていなかったこと、外部との通信用衛星電話など代替手段が確保されていなかったこと、その他懐中電灯やラジオなど災害時用備品が不足していたことなどが挙げられました。現在、BCPの整備を次年度の事業計画にも盛り込み、順次対策に着手しているところです。また、各職員がそれぞれの家庭、個人レベルでの防災対策の必要性を痛感したところです。

実は今回の震災直前の8月に「防災・BCPワーキンググループ」を立ち上げており、それまでの総合防災訓練の反省を踏まえ、当院のBCPに基づく災害対策体制を確立すべく本格的に取り組み始めたばかりでした。現在、今回得られた教訓も組み入れ、新BCPの骨格もできあがり、年度内の完成に向けて努力しています。2019年度早々には当院としてのBCP第1版としてリリースする予定です。これからも地域の急性期医療を担う病院として、大地震などの非常時においても地域の防災・支援の役割を果たせるよう職員が一丸となり、他の医療機関や関係各所と協力しながら対策を進めてまいりたいと思います。

